

普及活動情勢報告（平成30年7月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

文旦の低樹高化モデル樹で夏季剪定と摘果作業の省力化・・・第1回若者講座開催・・・



6月18日、宿毛市で若い後継者を対象にした第1回若者講座（文旦の低樹高化実証樹の設置と夏季剪定の実技）を開催し、13名が受講しました。

省力化が出来るように樹高を低くして着果量を少なくしても、管理が容易になって品質が向上することを説明しました。また、収量の低下は単価でカバーできることを受講者に理解してもらいました。

参加者からは、「授粉や摘果など柑橘類の中でも最も手間のかかる文旦は低樹高が良い」と高い評価を受けました。

若者講座はあと2回計画しており、農業改良普及課は、この低樹高化樹をモデルにして省力的で高品質な文旦の生産を支援して行きます。

文旦の夏季剪定と適正摘果で高品質生産を・・・第3回女性勉強会の開催・・・



6月22日、宿毛市宇須々木で第3回女性農業者勉強会を開催して文旦の夏季剪定と摘果の実技講習を行い、若い後継者のパートナーや親世代の女性農業者の4名が参加しました。

参加者はこれまで剪定や摘果の作業に従事したことがなく、夏季剪定や摘果は難しい内容でしたが、「切除量の目安は？」、「どの時期にどれくらい摘果すれば良いか？」など、積極的に理解に努めていました。

文旦の夏季剪定や摘果は高品質生産には習得が必須の技術であり、経験を重ねるごとに技能が向上します。そこで、農業改良普及課は、このような技能講習会を可能な限り数多く開催し、女性の技術力向上を支援して行きます。

黒潮町蛸瀬川地域の商品開発に向けて・・・6次産業化支援チーム会 黒潮町「かきせ」・・・



6月22日、黒潮町の集落センターかきせにて、今年度より6次産業化普及活動推進事業を活用し、商品開発に取り組む第1回のチーム会を開催しました。

チーム会では、「かきせ」の活動状況を報告後、今年度の活動計画について話し合いを行いました。今年度は、地域農産物を活用した商品作りのための食材カレンダーの作成や試作研究、食品表示や衛生面などについて学習することとなりました。

農業改良普及課では、アドバイザーと連携しながら、地域資源の活用方法や試作品づくりなど、商品開発に向けて支援を行います。

トマトスリットポット栽培の検討 ・ ・ ・ よさこいミディ研究会現地検討会 ・ ・ ・



7月2日、四万十市の研修施設「あぐりっこ」のほ場で今作から試験的に導入しているトマトスリットポットでの栽培状況を確認する現地検討会を開催し、生産者と関係機関合わせて11名が出席しました。

農業改良普及課からは、生育調査の結果を説明しました。生産者は養液、土耕栽培と比較したスリットポット栽培における生育の違いについて関心を持ち、EC管理についての質問などが出されました。

農業改良普及課は、今後も生育調査などによりスリットポット栽培に適した栽培管理方法を検討し、情報提供を行っていきます。

進めよう集落営農！ ・ ・ ・ 土佐清水市加久見集落座談会 ・ ・ ・



6月25日、土佐清水市加久見集会所において集落営農推進についての集落座談会が開催され、農業者と関係機関合わせて14名が参加しました。

農業改良普及課では、土佐清水市の農業の現状と集落営農の必要性について説明しました。

参加した農業者からは「個人での水稻栽培の継続は厳しい」、「集落営農は避けては通れない」などの意見が出され、集落の実態把握のためアンケートを実施することとなりました。

農業改良普及課では、関係機関と連携しながら集落営農組織設立に向けて支援を行っていきます。

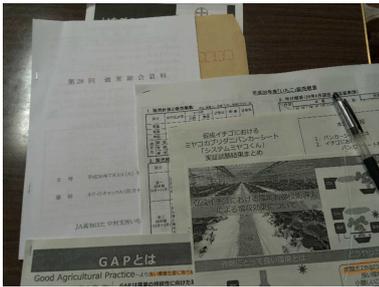
指導員の育成！ ・ ・ ・ 幡多地区営農改善協議会勉強会 ・ ・ ・



6月25日、営農指導員及び若手普及指導員を対象に、「農薬安全使用」「環境制御技術（植物生理）」の勉強会を行いました。講師は普及課職員です。意外に参加者は多く、30人強。農薬は日々指導している項目でもあり、積極的な意見交換が行われました。環境制御技術ではややおとなしめになりましたが、現場で使える知識を習得しようとする熱気は感じられました。現場での指導に役立ててください。

農業改良普及課はこれからも、生産者のみならず営農指導員を対象とした勉強会を行い、管内全体の資質向上を図って参ります。

新しい動きが始まっています！・・・中村支所いちご生産部総会・反省会・・・



7月3日、平成30園芸年度中村支所イチゴ部会総会が開催され、生産者9人が出席しました。活動実績と次年度計画が承認されました。

農業改良普及課からは、ハダニを抑えるバンカー試験の結果報告と効果的な農薬灌注の方法、環境制御を導入した管内のイチゴ生産者の実績、今後のガイドラインGAPの取り組みについて説明しました。また、部会の事業計画にも、生産工程管理記帳の取り組み向上が設定されることが決まりました。

農業改良普及課では、高知県版GAPの推進と併せ、環境制御技術の導入啓発を進めていきます。

幡多農GAPからGAP認証を目指して！・・・幡多農業高校のGAPの取り組み・・・



幡多農業高校では、幡多地域のGAPモデルケースを目指して、園芸システム科3年生が中心となって、農場の改善活動に取り組んでいます。

7月12日、農業改良普及課のJGAP指導員資格を持つ普及指導員が農場点検をしたあと、生徒代表者から幡多農GAPに関するプレゼンテーションを受けました。`気づき`により倉庫やほ場を改善した結果、ミニトマトの歩留まり率が上がり経営向上にも繋がったということでした。今回の点検で、自分たちでは気づかなかった点があったので改善していきたいという声が生徒たちから挙がりました。

農業改良普及課では、今後も幡多農業高校のGAP認証に向けた取り組みを支援していきます。

キュウリ栽培のレベルアップを実現しよう！・・・幡多地区きゅうり研修会・・・



発想を変えることも必要です

幡多地区きゅうり研修会を7月17日に開催し、生産者62人が黒潮町ふるさと総合センターに集まりました。

農業改良普及課は、JAと協力して黄化えそ病対策や環境制御技術を導入して取り組んでいる生産者の実績報告、GAP実践の必要性の紹介を行いました。会場には次作から炭酸ガス施用や日射比例かん水装置を導入する生産者も多数出席しており、技術の普及が進みつつあります。また、夫婦で参加した方や若手の姿も多かったことが印象的でした。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して、キュウリの生産安定を目指し、環境制御技術のさらなる普及とGAPの推進を図ります。